

令和3年 第1回 静岡市多文化共生協議会 会議録

- 1 日 時 2021年5月25日（火）19：00～20：45
- 2 場 所 静岡市役所8階 市長公室
- 3 出席者 多文化共生協議会委員14名  
磯部正己、伊藤洋子、磐村文乃、小川毅、加藤伶奈、孔雪、  
ゴーグエンゴックトラム、パメラジュール、高畑幸、長阪有美奈、  
中村直保、野田敏郎、ホリウチアリッセイズミ、松永秀昭  
田辺市長、望月観光交流文化局長、岡村観光交流文化局次長、  
国際交流課職員
- 4 傍聴者 18名
- 5 次第
  - 1 開会
  - 2 委嘱式
  - 3 委員紹介
  - 4 会長、副会長の選出
  - 5 市長との意見交換
  - 6 その他
  - 7 閉会

萩原国際交流課長（司会）

ただ今から、令和3年度 第1回静岡市多文化共生協議会を開会いたします。この協議会は、静岡市附属機関設置条例にもとづき、本市の「多文化共生に係る基本的施策や重要事項についての審議」を役割としています。本日、委員を委嘱する14名の皆さんには、令和4年度末までの2年間の任期の中で、「(仮称)多文化共生のまち推進条例」や、令和5年度からの次期「多文化共生推進計画」の策定についてご審議をいただく予定です。それでは、早速次第に従って進めさせていただきます。はじめに、委嘱式を執り行います。

（田辺市長から委員14名に委嘱状を交付）

萩原課長

ありがとうございました。2年間どうぞよろしくお願ひします。続きまして、「次第3 委員紹介」に移ります。

磯部委員

一般財団法人静岡市国際交流協会の磯部と申します。静岡市が地域外交や多文化共生社会の構築等、国際交流の推進事業を進めていくにあたり、具体的な事業について私共の協会がコーディネーター役をしております。昨年一般財団法人に移行し、経営的な基盤、あるいは事業の確実な実行に向けて努力をしている最中です。普段色々な外国人の方と生活相談や、やさしい日本語講座を開いて接しております。そういった現場の声を少しでも伝えたいと思っています。よろしくお願ひします。

## 伊藤委員

皆さんこんばんは、伊藤洋子と申します。フィリピン出身で、6年前、日本に帰化いたしました。静岡県国際交流協会でタガログ語相談員として毎週月・金曜日の朝10時から16時までおりますので、よろしくお願いいたします。静岡地方検察庁、裁判所のタガログ語の通訳士をして4年になります。他にタガログ語の医療通訳士も務めています。法テラスでもタガログ語通訳士で2年目です。コロナ禍になってから「かめりあ」(静岡県多文化共生総合相談センター)での相談が増え、困っている外国人が増えていると感じます。通訳の仕事は減っていて、事件が少ないのではないかと感じています。それはコロナ禍でもうれしく思います。

## 磐村委員

静岡市生まれ、静岡市育ち、大学から東京へ出て行ったり来たり、東アジア中心に各国に17年ほど住んで、5年前に静岡市に戻ってまいりました。海外で生活した経験から静岡市はどんなところか、自分にどんなことができるか考えてきました。そうした経験を静岡で活かすことができたらと考えています。こういう状況ですので、オンラインで日本語を教えたり、学生カウンセラーをしています。やさしい日本語の普及がミッションです。静岡市がやさしい日本語をもっと取り入れ、よりよい多文化共生の地域にしていけたらと、微力ながら務めさせていただきたいと思っております。

## 小川委員

北沼上小学校校長の小川と申します。小・中学校にも外国籍の子どもが増えています。

どんなことに困り、求めているのか、この協議会で意見交換できたらと思っています。日本の子どもたちはもちろん、外国籍の子ども・保護者も笑顔で生活できるような小・中学校になっていけたらと考えています。

#### 加藤委員

加藤侑奈と申します。清水区生まれ、清水区育ちです。2018年から2020年までJICA海外協力隊として東アフリカのタンザニアに2年間暮らしました。その時に言語が話せなくて困り、多くの現地の人に助けられた経験がありまして、日本に帰国して逆の立場となった時、一緒に何かできることがあると感じ、多文化共生に興味を持つようになりました。昨年は静岡市の「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」で多文化共生サポーター養成講座を受講して勉強しました。

#### 孔委員

中国から来た孔雪です。1997年日本語を勉強するために来日し、22年が経ちました。日本語学校卒業後、大学に通い、その後昨年までコンビニを経営していました。近所のお客様や住民が、外国の方が日本に生活していて分からない事、例えば、ゴミの捨て方、生活のマナー、ルールについて聞かれました。そこで皆さんの生活習慣に違いがあると気づき、仕事は去年でやめフリーになりましたので、皆さんの架け橋になれると思い応募しました。

#### ゴー委員

ベトナム出身のチャムです。4月からSAME（一般財団法人静岡市国際交流協会）でベ

トナム語の相談員をしています。まだ分からないことがいっぱいありますが、最近ベトナム人が増えて、ベトナム人の子どもが学校へ行ったり、良い生活を送れるようお手伝いできたらと思っています。

#### ジュール委員

オマハ市出身のパメラジュールです。25年間以上静岡に住んでいます。最初は姉妹都市交流事業で観光客として来まして、静岡大学に留学し、社会人となり、仕事・結婚をしました。子どもはいませんが、様々な職場を経験してきました。高校の英語教師、最初の国際交流員の仕事もしていました。中小企業で日本人と仕事をがんばってきました。ここ15～20年で静岡の外国人に対する意識が、お客様扱いから、少しずつ一住民への扱いに変化していると感じています。国籍だけでなく、様々な文化背景を持っている人を歓迎し、多彩な静岡になる事を期待しています。

#### 高畑委員

静岡県立大学国際関係学部の教員で高畑と申します。専門分野が社会学で、在日外国人の調査を30年ほどしております。大学でも多文化共生論という授業を担当しています。日本で、特に地域社会の一員として暮らす外国人をテーマに研究しております。これから静岡市が条例制定に向けて大きく動くという事で、大変楽しみにしております。

#### 長阪委員

長阪有美奈と申します。私は長年日本に住んでいますが、前回の多文化共生協議会を皮切

りに、このような会に初めて参加させていただいております。微力ながら本会議に貢献できるよう、より一層努力いたします。私はロシアのハバロフスク市出身で日本在住は20年以上、うち静岡市内での在住履歴は断続的ですが、合計で13年となります。東海地区・愛知・岐阜・三重・静岡県での民間通訳、一般企業通訳や法定通訳の履歴は15年以上となります。一回も現場に入ったことはありませんが、愛知県医療通訳英語委員です。資格取得後静岡に引っ越してしまったので資格だけ記念に取っております。現在は語学サービスを提供するP&S株式会社代表であると共に、ロシア語の通訳・翻訳、そしてナレーションをしております。ロシア語のナレーション歴は10年以上です。近い将来の目標は、東海地方での製造・観光業の企業による海外進出や事業のグローバル化など、様々な分野での多言語化などに必要な語学面でのサポートをしていくことです。個人的な目標は、母国と日本の架け橋になることです。本会議では長年日本に住んでいる外国人の目線から、そして日本国内の大都市での生活経験を踏まえて、今の静岡市が直面している多文化共生の課題について、是非皆様と活発な意見交換やブレインストームを行いたいと思います。

中村委員

私は地域の代表として静岡市自治体連合会に推薦され参加しました。駅南の森下学区の会長をしています。今自治会では、外国の人も参加してもらうことが大切です。今はどちらかというと自分一人で住んでいらっしゃる傾向があるようですが、いざ災害があった時はどうするのか、自治会でもPR活動をしています。去年「自治会加入のしおり」を英語・ポルトガル語・ベトナム語・中国語・スペイン語・ネパール語に翻訳し、外国の人達にも

自治体が何かをわかるよう PR活動をしています。私の地域にも外国人の方が非常に多く、駿河区は特に多い地区です。隣の野田先生も私と同じ町内ですが、学校とも協力しながら、学生が地域のお祭りなどいろいろな所に参加できるようにしていきたいと思えます。

## 野田委員

私は国際ことば学院日本語学校で校長をしています。留学生が日本語を勉強するところ、静岡市内には外国人はたくさんいますが、日本語学校は三つしかありません。こんなに外国人が集中する街でありながら、日本語学校が三つしかないのも、あまり馴染みがないのではないかとおもっています。生徒達は本当に普通の若者です。今日あったことをお話ししますと、1時間目に学生が疲れていたのも、YouTubeで壊れてぺちゃんこになった車を復元する動画を見せたら、さっきまで寝ていた学生がぱっと飛び起きて、「先生、僕はこれを勉強したいんだ。自動車を修理してきれいにする技術を勉強したかったんだ。」といい、次の授業から目を見開いて授業に参加していました。そういう普通の若者が通う所です。日本語学校の立場から、何かまちのお役に立てたらと思っています。

## ホリウチ委員

ブラジルの日系二世で、生まれ育ちはブラジルです。日本には国費留学生として、東京の大学院で留学するために来日しました。イギリスにも住んでいましたが、今自分の人生で一番長く住んでいるのは静岡市です。静岡大好きな静岡人です。現在、主に常葉大学と静岡文化芸術大学で非常勤講師を勤めています。その傍ら、ブラジル人コミュニティーの無料

通訳や法廷通訳、弁護士通訳を務めています。

松永委員

静岡商工会議所の松永と申します。商工会議所の大きなミッションの一つが中小企業の経営相談・支援です。今、中小企業が抱えている課題の一つが、人材確保と育成です。国の人口減少に伴い生産年齢人口が減っていることもありますが、課題解決の一つとしてDXと共に外国籍の方の安定的な雇い入れが必要不可欠だと思います。企業経営という面から見た場合には、外国人の労働者にも働きやすい環境づくりが大きな視点であると思います。家族がいれば、地域コミュニティでいかになじんでいくかという点も課題だと思います。企業・就労者の目線を大切に、この協議会に臨めたらと思っています。いくつかの市の協議会に参加しておりますが、こんなに多くの外国籍の方がいらっしゃる会に参加するのは初めてです。そういう方達の生の声を聴くことを楽しみにしております。

萩原課長

ありがとうございました。色々なご経験のある方々が集まって、これから議論していくという事にワクワクしております。それでは、これより「次第4 会長、副会長の選出」を行います。お手元の「資料1 静岡市附属機関設置条例」をご覧ください。一番下に「第6条 附属機関に会長又は委員長を置き、会長等は別表第1及び別表第2の会長等の欄に定める者とする。」としております。裏面の別表1で、本協議会の会長は、「委員の互選により定める者」としてありますので、これに従い選出をさせていただきます。それでは、

自薦他薦を問わず、会長について、ご意見はありますでしょうか。

中村委員

高畑先生にお願いできればありがたいです。

萩原課長

ただいま、高畑委員のご推薦がありましたが、いかがでしょうか。

田辺市長

中村会長、理由はありますか。

中村委員

去年の多文化共生サポーター養成講座で、高畑先生が大変上手に我々を導いてくれました。

恩師です。

萩原課長

それでは、高畑委員に賛成の方は拍手をお願いします。

(委員から拍手)

ありがとうございます。高畑委員、よろしいでしょうか。

高畑委員

承知しました。

萩原課長

それでは、会長は高畑委員に決定いたします。続いて、副会長の選出を行います。同じく、附属機関設置条例第6条第4項にありますとおり、副会長は会長にご指名をさせていただきます。それでは、会長の高畑委員、副会長をご指名いただけますでしょうか。

高畑会長

はい、副会長として、私の隣におられます、長阪有美奈さんをお願いしたいと思います。

萩原課長

はい、長阪委員、ご指名がありましたでしょうか。

長阪委員

承知いたしました。ご指導よろしく申し上げます。

(委員から拍手)

萩原課長

ありがとうございます。それでは、副会長は長阪委員に決定いたします。高畑会長と長阪副会長には、次回会議から議事進行等をお願いいたします。続きまして、「次第5 市長との意見交換」に入ります。はじめに事務局から、これからご審議していただく、多文化共生条例、計画について、及び本市の多文化共生にかかる現況について簡単に説明をさせていただきます。その後、市長と委員の皆さんとの自由な意見交換の時間としたいと思います。

それでは、事務局からお願いします。

事務局（国際交流課） 興津

お手元の資料で説明します。本協議会で2年をかけて、(仮称)多文化共生のまち推進条例、

そして新たに作る多文化共生推進計画の審議をしていただく予定です。資料の冒頭にごさ

いますが、本市が目指す多文化共生社会に関する理念と政策推進の基本的事項を定め、市民

一人ひとりが多文化共生のまちづくりに主体的に関わることを狙いとして、条例を作る

予定です。左側のグレーの所ですが、現在人口減少社会において、共に暮らす仲間である

外国人住民が、市内ではこの6年間で約40%増という状況です。様々な課題が出てくる

中で、さらなる多文化共生の推進が重要だと考えております。現状ではどんな条例とす

るか、中身はまだ決まっていない状況で、ご審議いただくこととなります。スケジュール

案ですが、本日5月の多文化共生推進協議会を皮切りに、7月、9月、来年の1月と、本年度

4回の協議会を開催予定です。来年の5月には、来年度第1回目の協議会を予定しており

ます。並行して11月～12月は3か所で市民との意見交換会を開催、来年3月にはパブリッ

クコメント、そして来年6月に静岡市議会に条例案を上程する予定です。協議会ではその

後、多文化共生推進計画の策定についてご審議いただく予定です。資料3の多文化共生に

かかる現況をご覧ください。現在の静岡市の状況を7つの項目にわたってまとめていま

す。まず、社会情勢は、①入国管理制度の改正、②静岡市が進めるSDGsと関連する多様性

と包摂性のある社会の実現、③～⑤でデジタル化、気象災害、あるいは今回の新型コロナウイルス

イルス、それらを踏まえ展開を考えたいと思っております。なお、国でも新たな多文化共生

計画を地域で作り直すとする動きがあります。条例についての他都市との比較ですが、政令指定都市では、神戸市が不当差別の解消を主な目的とする条例を作っていますが、静岡市では差別がないことも礎としつつ、更に外国人、日本人がともにまちづくりを進めていくことを条例にしたいと思っています。次に統計情報です。静岡市はアジアからの方を主として外国人住民が増えておりますが、85 개국という多国籍の方が在住していらっしゃいます。本市の特色は、留学生が多く、技能実習も3年間で急激に増加しています。区ごとに見ると駿河区が一番多く、清水区はブラジル、ペルーなど南米の国籍の方が多いこと、森下や新通などの外国人が多く居住する地域もあることがいえます。外国人住民と日本人住民の人口ピラミッドからは、外国人は20～34歳の若い世代の方が52%を占めていることがわかります。次に、外国人住民3,000人を対象に昨年度8カ国語で実施したアンケートから、8割以上が日本語で日常会話が可能であり、生活上の悩みは日本語や老後の悩みが多く、4割が差別された経験を持っていることがわかりました。また、8割が静岡市を暮らしやすいと感じており、市役所で、やさしい日本語の使用を望んでいることが伺えました。現在、日本人2,000人を対象にした意識調査を行っており、集計でき次第、次回の協議会でお示ししたいと思います。次に、関係団体とのヒアリングでは、外国人を雇用している事業所から技能実習生を増やしたいとの声、日本語学校からは教師の人材不足といった課題もいただきました。次からは、現在の静岡市の多文化共生推進計画です。令和元年より多文化共生総合相談センターを開設し、昨年度は年間1,300件ほどの相談を受けております。わいわいワールドフェア、多文化共生サポーター養成講座といった事業に

も取り組んでおります。最後に、昨年度までの協議会では、外国人住民から様々な提言を  
いただいております、これらにも対応する必要があります。

萩原課長

まだ、アンケートなどは途中ですので、次回も引き続き静岡市の状況を提供させていただ  
ければと思います。それでは、これより意見交換の時間とさせていただきます。まず、田辺  
市長にお願いしてよろしいでしょうか。

田辺市長

先ほど、私から皆さんにそれぞれの委嘱状を交付させていただきました。節目となる第10  
期の協議会です。どうぞ2年間よろしくお願ひ申し上げます。今回、より多種多様なバッ  
クグラウンドを持つ委員の皆様に結集していただき、それぞれ自己紹介をいただき、私  
は大変心強く思いましたし、第10期協議会に期待したいと思います。この協議会は歴史を  
積み重ねてきましたけれども、今ほど多文化共生が、静岡市が成熟していく為に大事な  
局面はございません。これからの2年間がすごく大事だと市長として理解しています。先  
ほど、たたき台となる静岡市の行政としての課題をコンパクトにまとめてもらいましたが、  
その中で皆さんにご紹介したいのは、国連や日本政府から要請を受け、地方自治体として  
SDGsに積極的に取り組んでいること、SDGs未来都市としての認定を受けております。  
SDGsの17の目標と、静岡市のまちづくりの計画を紐づけ、誰一人取り残さない静岡市を  
2030年までに実現させていく目標で進めていきます。一番大事なキーワードは「多様性、

ダイバーシティ」です。世の中にはいろいろな人が住んでいます。違った価値観、生活習慣、多種多様な皆さん、そして静岡市においても国際化の流れの中で、外国の方々もそれぞれ静岡ライフをエンジョイしています。みんなが静岡に縁がある仲間、ダイバーシティです。

ラグビーやサッカーのチームもダイバーシティがあったほうが強いのです。肌の色も同じ、同じ様な身長選手ばかりよりも、体格・肌の色も違ういろんなバックグラウンドがあるチームで日本代表としてワンチームになるほうが、強くなります。静岡市も一緒です。いろいろなバックグラウンドを持った人がワンチームになった時こそ、静岡市が強くなります。ただ、それは難しいことです。お互いを理解しなければいけない、なかなか理解しえない。SDGsは17の目標がありますが、一番大切なのは17番目の「パートナーシップで目標を達成しよう」という項目です。貧困、ジェンダーイコオリティーの問題も、地球温暖化も、パートナーシップで連携して実現していこう、静岡市だけでやってもだめ、みんなと一緒にやっていこうという目標が大事であります。2030年に向けてそれぞれ努力をしているわけですが、このコロナ禍の一年あまりの経過の中で、SDGsに対する評価が真つ二つに分かれています。コロナ禍によってSDGsは破綻・失敗した、2030年にこんな目標は実現不可能、コロナ禍によって世界中の人々が分断された、アメリカではいろいろな所で分断されています。経済格差がこの一年間で広がったという考えが一つです。もう一つは、得体の知れないウイルスと人類が闘っていかなくてはならない、今こそ人類が連携していく時だ、国籍・世代・立場を越えて連携をして、今こそSDGsの理念が大事だという考え方もあります。静岡市はもちろん後者につきます。言葉も生活習慣も宗教も違う、それぞ

れの正しさというものを持っている。異文化、異なった考えを受容する心構えで、市民一人ひとりが生活をしないと多文化共生社会は実現できません。多文化共生は言うは易し、行なうのは本当に難しいテーマだと腹にすえて、これから議論をしていきたい、それが私の静岡市長としての問題意識であります。どうか、こんな思いの一端をご披露させていただきましたので、残りの時間は是非聴かせてください。静岡市で生活をしていて、こんなことが不便だとか、こんな不都合なことがあったとか、こうして欲しい、ああして欲しい、何でも結構です。皆さんの視点から、これから夢を持って静岡市に来てくださる沢山の外国の方々に対する準備の為にも是非いろいろ教えていただきたい。これは公的な協議会です。いろいろな協議会がありますが、非常に重要な位置づけの協議会で、全て今日は録音しますし、皆さんの発言は公文書として記録され、行政に反映されていきます。是非、忌憚のないご意見をお願いします。

萩原課長

市長、ありがとうございます。今日はSDGs Pressも配布しており、ご覧になっている方もいらっしゃるかと思いますが、我々の資料2にも、10番目の目標「人や国の不平等をなくそう」を心にとめながら多文化共生のまちづくりを推進していく思いです。先ほどの資料説明に対するご質問でも結構ですし、市長の思いを聞いて普段感じている事ですとか、静岡市に住んで良い事、また不便なこと、悪い事も忌憚なく話していただきたいと思えます。審議はこれから進めますが、今日は普段皆さんが感じている事ですとか、問題提議としてお話しいただければと思えますがいかがでしょうか。

ながさかふくかいちょう  
長阪副会長

わたし かいしゃくちが  
私の解釈違いかもしれませんが質問したいと思います。こんご ほんきょうぎかい ほうしん  
今後、本協議会の方針として、現在  
しずおかしない ざいじゅう がいこくじん す  
静岡市内に在住の外国人が住みやすい環境づくりについてきょうぎ  
協議をするのか、これから  
しずおかし す  
静岡市に住みたい外国人を更に増やす為によりよい環境づくりについてきょうぎ  
協議するのか、ど  
ちらでしょうか。

たなべしちょう  
田辺市長

これは、ORではなくAND、どちらかではなく、どちらもです。わたし もんだいしき  
私の問題意識では、優せん  
ぜんしち  
は前者です。まず、すでに住んでいる方がこのしずおか  
静岡ライフでしあわ  
幸せでなければ、あたら  
新しい人達は  
き  
来ません。これはわたし にんしき  
私の認識ですがじむかた  
事務方はどうでしょうか。

はぎわらかちょう  
萩原課長

しずおかし いまじんこうげんしょう す  
静岡市は今人口減少で、住んでくれる人も、こうりゅう  
交流で来てくれる人も増やしたいという思い  
です。もちろんにほんじん  
日本人も、がいこくじん  
外国人も、どちらも来てもらいたい。がいこくじん す  
外国人が住みやすいまちと  
いうのは、どんなにほんじん  
日本人にも、どんなかた  
方にも住みやすいまちをめざ  
目指すことがちかみち  
近道という考  
えかた  
方を持てば、このまちがよくなるのではないかとかんが  
考えております。まずはいます  
今住んでいる  
かた  
方がどうかんが  
考えているか、どうす  
住みやすいまちにしていくか、ぜいひ  
是非、しごと  
仕事・せいかつ  
生活の中で何か  
あればおし  
教えていただきたいとおも  
思います。

ながさかふくかいちょう  
長阪副会長

ありがとうございます。

伊藤委員

私は「かめりあ」に勤めて3年目になりますが、フィリピンの方で日本の保険制度、年金制度をあまり詳しく知らない方が多く、皆不便に感じています。どうしたらもっと伝わりやすくなるかを考えていますが、市が日本の保険・年金制度をもっと伝わりやすくすればいいと思っています。

田辺市長

おっしゃるとおりです。全国815の市長が集まって、全国市長会という団体を作っています。私はこの会の副会長で国へのロビー活動をしています。自治体の行政課題に対して、国に要望、働きかけをし、予算をつけてもらい、制度を新しく作ってもらう活動です。国際化していく日本社会で、外国から来た方々の福利厚生をどうしていくかという事については、切実な問題意識で要望をあげております。ただ、やはり日本国籍を取ることを大前提として、いろいろ組み立てられているのが今の状況です。これからも国への要望は続けていきたいと思っています。

中村委員

森下学区には1万人が住んでいて、そのうちの359人が外国人ですが、あまり知られてはいません。市では把握している統計を、どれくらい学区の人達におろしてくれているのか。居るか居ないのかが分からないと、接し方も分からない。先日、外国人の方の困り事について保健センターに出向きましたが、民生委員や自治会長には多少門戸が開けてもらえればと

も思うので、そういうコミュニケーションをどうしたらいいのか。皆様の発言から外国人の方々が誰に相談したらいいのか分からないという、自治体として一歩下がっている状況があると感じます。私はそれを一歩前を出て、お祭りでお神輿をかついでもらうとか、そういう事によって地域の交流をしています。地域に住んでいる人たちとのコミュニケーションをいかにつくるかと考えるほうが、いざとなった時に助け合う事ができるのではないかと思います。

田辺市長

中村会長、ありがとうございます。これから2年間議論させていただきますので、基本的なフレームワークをお伝えしますと、中村会長は、JR静岡駅のすぐ南側の森下学区で世帯数約5,000、人口1万人の自治会連合会の会長です。駿河区が19、清水区が21、葵区が38、全部で78地区のコミュニティーがあります。78地区ごとの外国人居住者について、静岡市はデータを持っていますか。

萩原課長

はい、持っています。

田辺市長

そうすると今度は個人情報保護の問題が出てきます。中村会長のもっと前に出たい、そのために現状を把握したいとの話ですが、情報の取り扱いには気を付けないと、非常に難しい時代になっていることはご理解いただきたいとおもいます。むしろ外国人コミュニティー

の場合、私もイギリスの生活を経験しましたが、お国柄によって、例えば日本人は意外と集まりません。その国籍の人たちだけでコミュニティーを作るお国柄もあるし、バラバラに生活している国もあります。そうした中で、その国籍のコミュニティーのリーダーが、学区の会長と知り合って、お祭りに参加するといった繋がりを持つことは何ら問題なく、とてもありがたいことです。今日はいろんな国籍の方がいらっしゃるので、森下学区に住んでいる人を知っている方は、是非委員同士で紹介してきっかけを作っていただきたい。日本人はコミュニティーに入っていくと、とても親切です。だけど、島国でホモジニアスに今まで暮らしていたし、そういう教育をされてきたので、なかなか最初のハードルが高い。異なったものに対する怖さ、無知なのかもしれません。人間と人間の触れ合いがあれば、同じなんだねと気付きます。きれいな物を見たり、おいしい物を食べたりすれば感動するし、人間的な触れ合いをする経験をもっと外国の方としていかなければならない。委員の皆さんには是非そのきっかけ作りをして欲しいと思います。国際交流協会はそういう機会を提供する事を一つの目的とした組織です。11月にはイベントもしています。中村会長には、是非この委員のネットワークを活かしてきっかけを作っていただければと思います。

中村委員

はい、わかりました。

野田委員

まさに今日のことですが、学校の寮がある所の住人から、学生寮の換気扇からすごく煙が出てくると苦情がありました。多分スリランカの学生がカレーでも作っていたのかと思

うのですが、匂いはいいが、油が出るのは困るので、換気扇に油を取るフィルターを付けてくれないかという訴えでした。ご指摘ありがとうございました、車を汚してしまって申し訳ありませんと丁寧に謝りました。すごくいい方でしたが、私としては、その方が自ら寮を訪れて、何を作っているのかと声をかけてくれればありがたいと思いました。もしかしたら直接行くのは怖いと思っていたのかもしれませんが。私達ももっと敷居を下げるような活動をしなくてはならないと感じました。幸い八幡三丁目はいろいろなお祭り事に参加するので、学生が八幡の辺りに住んでいる事は八幡の住民の方々はご存じだと思います。隣の街は、実は交流があまり無く、市長がおっしゃっていたのは、まさにそういう事です。住んでいる人の顔が見える関係が、学校としても実はありがたいと思っています。本当に積極的に声を掛けてもらいたいと思います。元留学生のご経験が有る方にもそのあたりを聞きたいです。突然隣の人からゴミの捨て方が違うよと言われるのは嬉しいのでしょうか。

#### 孔委員

嬉しいと思いますが最初はびっくりするかと思います。私もコンビニの時、大谷で静岡大学の街なので外国の方が多く、私も外国人なので、近所の人や大家さん来て「何とかして」と言われたことがあります。そういう話をよく聞きますから、直接より、メモや伝言とか、町内の方を通じてくれたほうが、助かるかもしれません。直接だとこちらも怖がります。

#### 田辺市長

そこにちょっとワンクッションあったほうがいいですね。

孔委員

そうですね、ありがとうございます。

ゴー委員

同じような意見ですが、夫婦でアパートに住む知り合いが職場も一緒なのですが、ある日職場に電話がかかってきて、日本語が分からないので、私が通訳でお話を聞いてところ、アパートの横に知らないナンバーの車が置いてあるとの話でした。その夫婦は二階に住んでいるので、もしかしたらベトナム人の人達ではないかと思ったようです。しかも警察からも移動しなさいという電話がありました。奥さんは今来客はありませんと言い、旦那さんは家に確認しに帰りましたが、結局ベトナム人夫婦の知り合いの車ではなく、他の部屋に来ていた人の車でした。そういうところでもちょっと差別を感じます。直接聞けばいいのに、まさか会社まで電話をかけてきて、ちょっとびっくりしますし、悲しいと思います。

田辺市長

そういう話を聞きたかったです。切実なご意見です。

ゴー委員

今ベトナム人も増え、中国人に続いて二番目です。留学生、技能実習生が多く、若い子もいます。最近、いろいろとベトナム人の事件があり、仕事場でどう思うかなどを聞かれるようです。なんとも言えません。日本人でもいい人もいれば悪い事をする人もいるので、そのように言われたら、私自身も差別ではないかと感じます。

田辺市長

今、コロナで心がぎすぎすしているので、ヘイトクライム的なディスクリミネーションの事件が世界中から飛び込んできます。要はどの国の人であっても、いい人もいれば悪い人もいるわけですね。いい人と知り合えば、その国の印象も良くなる訳で、そのコミュニケーションの架け橋をどう作っていくかというのがポイントだと思います。その中で大事なのが言語の問題です。日本語で会話ができることも大事だと思います。移民を受け入れてきたヨーロッパの国々が、言語の講座を提供する中でコミュニケーションが取れる施策をしてきたことを参考に、日本語を気軽に安価に学べる講座を増やしていこうと国際交流協会も取り組んでいます。また、日本語だけでゴミの出し方が分からなければ多言語表示となるのですが、定番の英語、中国語、スペイン語で終わってははいけません。静岡市の現状で近年増えているのはベトナムやミャンマーなどの人たちです。英語がわからない人々への対応から誤解が生まれ、一つの差別のベースとなってしまう事も改善しなくてはならないので国際交流課に指示をしています。また、子どものほうが大人よりも日本語習得のうりよくが高く、大人の会話を子どもが日本語で通訳してくれるというケースも出ています。清水区の三保地区は外国人が多く、お子さんが通う公立小学校に日本語教室を教育委員会が設置し、教育のできる教員を入れて特別支援を行っています。日本語をベースにした相互理解、双方の努力が必要だろうと思っています。ロシアの立場からはどうですか。

長阪副会長

とても切実な問題で、日本での最初の生活を思い出しました。ロシアではイギリスと同じ、ほとんど分別せずにゴミを出すので、私にとっては昔話ですけれど、最初はなかなか理解できませんでした。なぜここまで分別しなければならぬのかと思いました。けれども、逆に今は母国に戻ると、分別しないで気持ち悪い、地球が可哀そう、と思う人間になったので、日本のゴミの出し方は正しいと思います。

田辺市長

ブラジルの立場、あるいはアメリカの立場でご発言をいただきたいと思います。

ホリウチ委員

ブラジルではゴミは毎日回収に来るので、最初日本に来た時は困りましたが一生懸命勉強しました。ところで、一つ気になるので伺います。14年間SAMEでポルトガル語相談員として、Den bill、CCCに事務所が置かれていた時に勤めました。今、SAMEは市役所の17階で、以前ブラジル総領事に同行した時、きれいな景色が見られるとお話していました。あるとき17階にいた外国人らしい方が、もしかしたら1階で用事を終えて、SAMEでお話をしたい、または、相談したい事があったのかもしれませんが、ちょっと見てまたエレベーターに戻っていました。外国人住民にとっては行きづらくなったようです。SAMEの場所に関しては予算とか話し合いの結果かとは思いますが、お伺いしたいです。

田辺市長

17階に引っ越したのは、私の強い思いがあったからです。民間の国際交流協会と市行政

の観光交流文化局国際交流課との風通しをもっと良くしたかったためです。それまでは物理的に離れていたもので、同じ目的でもバラバラでした。特別な計らいで、SAMEを市役所の中に入れて、同じ階でいつでも共通の議論ができるようにしてもらいました。けれども、敷居が高くなると困るので、去年、多文化共生総合相談センターを作り、相談窓口として活用して欲しいというのが我々の仕立てです。私は国際交流協会の会長ですので、今日指摘されたことは、心に留めて、改善していかなければならないと思いました。

#### 磯部委員

ホリウチ委員がおっしゃった事については、職員の中でもいろいろな問題提起をしながら話しています。私は昨年四月、今の場所に移ってから来ましたので、その前青葉小学校のCCC、Den billの時代を知る職員とも、どういった形が今後よいのかという話をしています。市長がおっしゃったように、相談センターの事業も活用しながら進めたいと思います。まだまだSAME自体の認知度が低いこともアンケート調査で出ておりますので、特に情報提供の仕方によって全然違う事を肌で実感しております。どの媒体を使えばどの国民に伝わるか、紙媒体を見なくても、Facebookで連絡を取り合うお国の方もいらっしゃいますし、最近はSNSを駆使して、対象を想定しながら広報をしていきたいと思っています。確かにエレベーターで17階に上がるのは不便ですが、入口は大きく開放しています。また、職員も外国の方が通ったら「何か御用ですか」という声掛けを積極的にするよう努力しています。情報誌などを通じて相談センター、SAMEの存在をアピールしていきたいと思っています。

たなべしちょう  
田辺市長

いつもドアは開かれていますと教えてあげてください。パメラジュールさんは SAME の理事を務めてもらっているのです、SAME の成果と今後の課題、まだ発展途上で育てるべきところなど、是非率直なご意見をいただければと思います。

ジュール委員

情報発信が一番重要だと思いますけど、SAME を始め静岡市役所も一番弱点かもしれないです。情報を出せばいいのではなく、まずは元の日本語を分かりやすくする。日本人でも分からない事が多くて、私はよく日本人にも説明をしています。ホームページも分かりづらいし、欲しい情報が出ていない。まずは元の情報について、今の市民が欲しい情報なのか、そして分かりやすいかをもう一度見直す必要があります。また、単純な翻訳ではいけません。必要な言語も変わってきており、国によって意識も違うからそのまま翻訳しても理解できません。翻訳者と協力、話し合っ作る必要があります。すべての言語には対応できないので、ピクトグラムやアイコンなどで、一目でどの国の人でも分かるようにすることにも力を入れるとよいと思います。

たなべしちょう  
田辺市長

最後に会長、副会長から発言してもらいたいのですが、その前に海外経験をして静岡に戻りこの委員の公募に応じていただいた立場から、是非東アジア各国でお住いの磐村さん、海外協力隊でタンザニアにいらっしゃっていた加藤さんから、今までの議論の延長線上

でも、別のカテゴリでも結構ですので、是非ご発言をそれぞれお願いします。

加藤委員

市長の話の中で、受容する心構えが必要だというお話を伺った時に、始めは知ること、関心を持つことが一番大事だと思いました。アフリカで生活した時、第一印象でアジアの人というのは理解されても、日本人だと分かってもらいたかったことがあります。お互いを知り合う、伝え合うことが大事だと学びました。日本に帰ってベトナム人の友人ができましたが、病院に行ったけれど良くならないので、他の病院を Google マップで調べているという話をききました。近くの病院に一緒に行ったら、外国人には問診票の言葉を理解することが日本語を流暢に話すことができても難しいと分かりました。一緒にいると分かることも多く、自分達ももっと知らないといけないと強く感じました。

田辺市長

ご経験に基づいた貴重なご意見ですね。そういう細やかな事に気が付いてあげなければならぬという事でしょう。磐村委員は東アジアのどちらの国で暮らしていましたか。

磐村委員

韓国、中国と台湾で暮らしました。やはり交流と知り合う機会が少ない事があげられると思います。これにはアイデアを出してできることを見つけられるのではないかと思います。因みに私はお茶が趣味でお茶屋さんで交流ができました。お茶を飲みに行けば集えるというスポットをつくれませんか。みんながそこに行けばお茶を飲みながら情報交換で

きる、また、どこに行けば必要な情報が手に入るかが、広く知れ渡ればよいと思います。

私が大変気になっているのは教育の問題です。母語やアイデンティティをどうやって育てていくのかということにもっと敏感に、教育上の配慮が必要ではないかと思います。教育においてアイデンティティを育て、共生を考えていくことは宝になるでしょう。例えば台湾では新住民言語の教育もあります。静岡市でも、言語や文化を学び合う取組をしていけば、発展が望めるのではないかと思います。やさしい日本語は日本人に、特に行政の人は最初の入口として学んで欲しいです。そして私達日本人住民側もやさしい日本語に取り組んで欲しいと思います。

田辺市長

ご提案をいただきました。これは議事録に載せますので、また参考にさせていただきます。ありがとうございます。経済界から松永委員。教育委員会から小川委員、議論を聞いていて、何かありましたらご発言をお願いします。

松永委員

今まで話をお聞きして、共通のキーワードはコミュニケーションかなと感じました。実際私共の中、小企業経営相談の職員に聞いたら、外国人の方が突然いなくなって出てこなくなると雇用主から相談が来たケースが何件かあったようです。それはさきほども申し上げたように、外国人にとって就労しやすい環境と共に、やはりコミュニケーションの大切さが介在していると感じました。情報の伝達とか、いろんな事がありますけど、私は

いかにコミュニケーションを取れるかということが、重要だと思ひます。

小川委員

皆さんのお話を伺って、どうしたら仲良くなれるのか、人間関係づくりに尽きるのかなど感じたところでは、いろいろな価値観がある中で多様な価値観を認める寛容な態度がこれから教育で求められ、児童・生徒につけていかなければいけない力なのだと感じました。一番根っこのところは人権教育、お互いに尊重することかと思ひます。自分も外国の方を見かけた時になかなか声を掛けられません。仲良くなりたい、話をしたいという気持ちはありますが、声を掛けられない、そんな日本人が多いと思ひます。けれども、小学生の子ども達はすぐに仲良くなります。身振り手振りや、大人が聞いてもその会話は分かりませんが話をしています。彼らの言葉で意思疎通ができています。すごい力だと思ひます。

田辺市長

心が柔らかい若い時の国際理解教育がすごく大事だと思ひます。また、校長先生としても、子ども達のことをどうぞよろしくお願ひいたします。

(市長から傍聴者に御礼等)

それでは、副会長・会長、まとめの発言をお願ひします。

長阪副会長

本日は、委員の皆様の声を聴くことができ、また田辺市長の充実したご解説を聞くことができました。次の協議会までに消化しなければいけないことと、いろいろ考える情報が得

られまして、ありがとうございます。最後に、ご検討していただきたいことがございます。

静岡市内ではもちろん留学生や雇われている外国人の方が沢山在住しておりますが、

個人事業主や事業を起こしている外国人の方もいらっしゃいます。そういった視点から、

是非静岡商工会議所、SIBA、法人会、清水区にあるJETROに外国人経営者も足を運びや

すくなるような環境を次のステップでも結構ですので作っていただきたいと思います。私

は平気で行くタイプですが、知り合いの経営者の方はやはりどうしても先入観があって、

せっかく事業を起こしても足を運ぼうと思われていません。SIBAからはたくさんメールを

いただき、外国人留学生と日本企業の交流会の情報などをいただいています。経営者同士

の交流もこれから非常に大事なことだと思えます。

田辺市長

大事です。商工会議所の松永常務理事がいらっしゃいますので、経済界のつながりをお願

いできればと思います。

高畑会長

市長のお話し、また皆さんのお話しを伺って思うことは、外国人と日本人との二つには分

けられないということです。委員の皆さんの中にも外国出身で、今は日本国籍という方も

おられます。誰が外国人、誰が日本人ということ、少なくともこの場では一旦忘れてお話し

を伺うと、みんな静岡人だと思えました。実際、外国から来られた方々が静岡の産業・

経済・地域を支えているのは明らかだと思います。この協議会で、みんなで力を合わせて、

2年後さらに良い状態の多文化共生の在り方が静岡市で実現する事を目指して進めています。ききたいと思っていますので、今後ともよろしく願いいたします。

萩原課長

ありがとうございました。とても内容の濃い意見交換になったと思います。本日いただいたご意見の要旨は、次回の協議会の資料としてまとめますので、よろしく願います。それでは、最後に、閉会にあたり、静岡市観光交流文化局長の望月からご挨拶申し上げます。

望月局長

観光交流文化局長の望月です。本日は活発なご意見をいただき、ありがとうございました。皆さんの自己紹介を聞かせていただいて、市長と同じく心強く、頼もしく思った次第です。昨年、多文化共生サポーター養成講座に何回か出て、いろいろなご意見を聞いていたところです。私は清水区生まれ、清水区育ちで、小さい頃からサッカーを通じて、いろいろな国に行きました。市役所に入ってから、エスパルスに派遣研修という形で2年間おり、アジアの大会、韓国、中国、タイ、ベトナム、サウジアラビアにも行かせていただきました。公務として、客船のポートセールスでアメリカ、中国、市長とドイツ、台北マラソンの関係で台湾へも行かせていただきました。自分自身も様々な文化・宗教を経験させてもらい、今この立場にいますが、多文化共生は将来の静岡市にとって非常に大切だと認識しております。この2年間は大事な2年間になっていきますので、今後とも活発なご意見、そして条例制定、そして新しい多文化共生推進計画を作るにあたって、皆さんのお

力添えをいただきたいと思<sup>おも</sup>います。本<sup>ほん</sup>日はあり<sup>じつ</sup>がとうございました。

萩原課長<sup>はぎわらかちょう</sup>

あり<sup>じょう</sup>がとうございました。以上<sup>いじょう</sup>をもちまして、第<sup>だい</sup>1回<sup>かい</sup>多<sup>た</sup>文化<sup>ぶん</sup>共<sup>き</sup>生<sup>せい</sup>協<sup>きょう</sup>議<sup>ぎ</sup>会<sup>かい</sup>を閉<sup>へい</sup>会<sup>かい</sup>いたします。

以上<sup>いじょう</sup>

会議録署名人

会 長            高 畑            幸